

は映画大好きな脚本・演出、松居大悟さん。彼のブログより、一ヶ月間に観た映画を月末にまとめて評するという「マツイアカデミー」抜粋してきました。5月は29本の映画を観たそうです。本人のコメント付きでどうぞ。(上野友)

## ★位 素晴らしき哉、人生!

これ暇なら皆さんも見てほしいですね! まじ久しぶりにくつそ泣きました。メガネが涙でずれ落ちました。泣きたい、前向きになりたい、と思う人がいたら、これはぜひ。白黒で、話もちょっと強引だったりするんですが、そんなの吹っ飛ばしてしまうほどに、「人生は素晴らしいな」とベタに思われてきます。偏見や先入観を持たずに、何も考えず、ボーッと見てほしいです。人生に疲れてる人は、本当に泣いてしまうと思います。それとも僕だけなんでしょうか。こういう作品に觸れたら幸せです。

## ★2位 恋愛小説家

いや一面白かったです、ジャック・ニコルソン主演のラブロマンスなんですか。僕ラブロマンス好きなんですかね、もっとアートな感じが好きであります。でもゴーダールもフェリーニもよくわからないです。すごいジャック・ニコルソンが優しくなっていくので、そんな、もう、優しいとかされたら僕は好きですよ。

## ★3位 チャップリンの移民

宗教じみてます。長編は全部見たので、そんなに面白くないんじゃねえか、っていう作品集にまで手を出しまいました。基本的にはもう、そんなになんですよ。でも時々、心ががしつと掴まれてしまうので、僕はまた見てしまうんだと思います。これはその頻度が多かったんです。

# マツイアカデミー



頼れる兄貴分  
目次立樹

秘めた闘志を持つ

松居大悟  
(兼脚本・演出)

遅れてきたエース

堀江真弘

ゼミで奮闘中

増田隆司

遅れてきたエース

堀江真弘

ゼミで奮闘中

# 会報工房

第3号  
2007年  
7月3日発行

# 稽古場 now

**創像工房** in front of. は演劇、お笑い、映画などを創作する慶應義塾大学の公認団体です。『会報工房』では創像工房 in front of. の活動報告と、公演では見ることのできない工房員の一面をお見せします。公演案内と共に楽しんでください。

## 企画紹介

**梅雨**が明け、蒸し暑い日が続いている。夏はもう目の前だ。さて、次回公演『ロックンロール逃げる』は8月初頭、夏休みの始まりと共に幕を開ける。なんかロックじやない男たちの絶望的ラブコメディー。第一回シアターグリーン学生芸術祭出品作品である。会場は池袋にあるシアターグリーンベースシアター。創像工房が外小屋で公演を行うのは2003年『夕空スタイル』以降、実に4年ぶりとなる。



▲『かけぬけない球児』(左)・学生芸術祭(右)のチラシ

学生芸術祭演劇部門参加大学は慶應、日芸、桜美林、東大、同志社、立教、中央、早稲田の8校。映像部門は多摩美、武藏美、大阪芸大、成城と、東京学生映画祭推薦枠の2校。8月3日～9月24日の9週間に渡って開催される。慶應大学代表の我が団体はなんと芸術祭のトップバッターを務める。また、OBで劇団乞局主宰の下西啓正さん、劇団とくお組主宰の徳尾浩司さんを迎えてのアフタートークも開催される。脚本・演出を務めるのは昨年5月コメディー公演『かけぬけない球児』を手掛けた松居大悟。役者経験も豊富で、創像工房の顔とも言える存在である。「気を抜くと切なくなってしまいますが、御来場いただいてそれを笑い飛ばしてもらえれば幸いです。」とのコメント。メイン役者は2～4年の6人の工房員たち。学部も学年も違う6人のツンデレ役者が織り成す異色のコメディーに乞うご期待。(半田)

## 脚本演出家に聞いた質問! ③



▲松居さん。  
やさしい眼をしています。

- 1 今回はどういう作品にしたいですか?

前回の『かけぬけない球児』とはティストがまったく違う芝居です。『球児』のようなドタバタはゼロ。漫画『タッチ』でいうと、前回は和也で、今回は達也。両方南ちゃんが好きで、和也は南ちゃんの手料理を「おいしい」と言いながら食べるけど、達也は言わないかわりに、おかわりをする。それで目的がわかる、みたいな。そういう作品です。

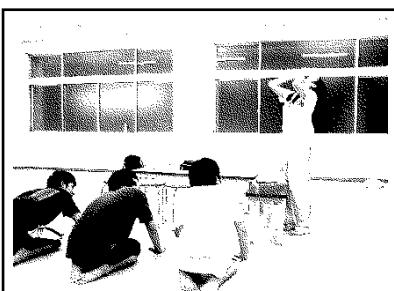
- 2 素敵だと思う人間性は?

不器用な人。恥ずかしがり屋さん。

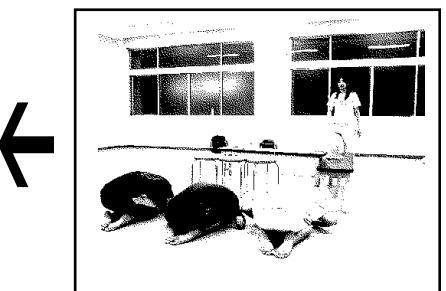
- 3 今回の稽古場では誰が一番恥ずかしがり屋さんですか?

や、全員かな。だって稽古場で会話ないもん(笑)。

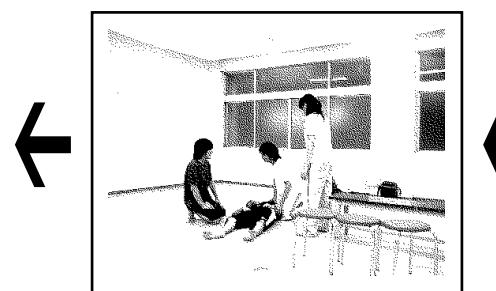
映画好きな松居さん。裏面の記事も注目です。(上野友)



▲蹄めて服用する吉田さん



▲土下座する三人



▲豊満を確認する堀江さん



▲薬を服用する佐藤さん



▲三人を追い込む吉田さん

やつてきました、8月企画『ロックンロール逃げる』の稽古場。新人公演とはうつてかわって、ベテランの役者陣が集つて、手に汗握つて稽古場の扉を開けば、そこは大所帯。サブキャストや演出助手を含め、約10人のメンバーが稽古をしていました。この大人数、結構な迫力です。普段は穏やかな演出・松居大悟さん、演出助手・岩松道朗さんの目がキラリと光つて役者に演技のダメ出しをしています。

そして休憩時間となり、少しばかり時間を頂いてお馴染みの「何か流行っているものありますか?」という質問をしてみました。だが、特に無さそうな様子。ただ『ジャンケン』でどうのこうのしてエチュード』といふものがある、と演出助手兼サブキャストの志村和貴さんがボソッと教えてくれたので、今はそこに食いついてみました。エチュードとは稽古の一つで、要するに即興劇のことです。なにぶん即興なので、稽古場の色が一番異なる稽古じやないでしょうか。そんなワケで、エチュードから稽古場を感じた。今回はずつと同じ場面の設定で、役者が一人ずつ加わっていく即興劇です。

選ばれましたは、メインキャストから為村篤さん、堀江真弘さん、サブキャストから佐藤光さん、吉田祥子さん。なんだか見えた目に華やかな面子です。まずは為村さん。無言で黙々と何か作っています。凄い真剣な面持ち。何かの実験でしょうか。と、そこへ佐藤さん、なぜか足下へいきなり滑り込んだーっ!! 「セーフ? セーフ?」 笑う稽古場、クリーンヒット。2人で野球の練習をし始めましたが、一体ここはどこなんでしょう。いちいち動きがコミカルな様子。と、そこへ吉田さん。まずは練習とう設定にのつかるものの、先ほど為村さんが作っていた「何か」に焦点をあててきました。隠す為村さん&佐藤さん。執拗に迫る吉田さん。と、続いて現れましたは堀江さん。彼も「何か」の正体を隠しますが、椅子の下の「何か」を吉田さんに見つけてしまつたことで事態は急変。堀江さん言い辛そうに「女性の、ホルモン、を、その: :」。そう言って、試しに佐藤さんに飲ませたところ……倒れたっ!! 集まる一同、そうして触った胸は、それはそれは豊満なモノに変わっていました。稽古一同の笑い。続いて、この薬を吉田さんにも飲ませようとして触った胸は、それはそれは豊満なモノに変わっていました。稽古一同の笑い。続けて、この薬を吉田さんにも飲ませようとすることに。起きが気になつて、エチュードを終わらせない演出・松居さん、ここぞとばかりに再び目が輝きます。嫌がる吉田さん、逃げる吉田さん。しかし、3人の土下座にしぶしぶ薬を飲む吉田さん。黙る3人、固まる吉田さん。と、佐藤さんが一言、「うわっ、縁つ!」。なんと吉田さんが飲んだのは、亀になる薬でしたと。なんだかSFチックな内容でこやかに進められたストーリーに、笑わせてもらいました。といつても、本番とはなんの関係もない即興劇です。同じ面子で繰り広げられる『ロックンロール逃げる』、本番がどうなることやら楽しみです。(後藤)